

ひとはく通信

ハーモニー

111

Nov. 2020

特集

活性化する兵庫県三田市での

里地里山の保全活動

一 自然史標本から得られる生態情報 一

博物館が保有する自然史標本の価値というところまず、分類学分野におけるものが頭に浮かぶでしょう。しかし博物館の標本からはそれ以外にも、有用な情報がいろいろ得られます。私はかつて両生類や爬虫類の液浸標本を、形態を損なわぬよう細心の注意を払いつつ解剖することで、食性や生殖特性などの生態情報を多く得ました。図1は沖縄の石垣島で増殖している外来種オオヒキガエルの標本の胃内容物を調べた結果です。昆虫をはじめ実に多くの在来動物を捕食していることがわかりました。生態系リスクの観点から優先的なコントロール対象とすべきといった政策

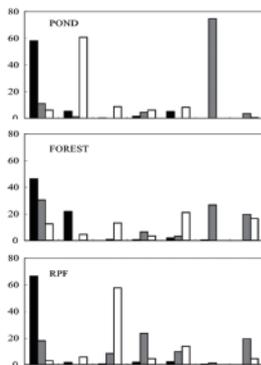


図1 石垣島の異なるタイプの環境(上:池,中:森林床,下:水田)で得られたオオヒキガエル液浸標本の胃内容(黒色バー)、ならび墜落管の設置(灰色バー)と捕虫網を用いたスウィーピング(白色バー)それぞれで得られたサンプルにおける、各分類群(左から膜翅目、半翅目、双翅目成虫、直翅目、クモ類、端脚類、トビムシ類)の相対数(%)。Kidera et al. (2008, Pacif. Sci. 62: 423-430) の Fig. 1 を改変。

提言の取りまとめにあたり、重要な根拠となりました。図2は沖縄諸島や奄美諸島などに分布するトカゲ科の一種ヘリグロヒメトカゲの液浸標本を解剖し、成体雌の生殖器官を観察した結果です。当時生殖周期が知られていた日本産のトカゲ科には珍しく1年間に複数回産卵することが明らかとなり、この仲間における生殖周期の可塑性に関する議論の一つの発端となりました。このような多分野への貢献に向け、今後もさらに採集日や採集場所などの情報がしっかりした標本の、博物館での蓄積が望まれます。

太田 英利 (自然・環境評価研究部)

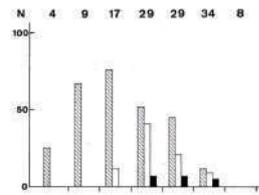


図2 博物館収蔵のヘリグロヒメトカゲ成体雌液浸標本における生殖期間の剖検結果。横軸は標本の採集月(3~9月)。斜線バー、白色バー、黒色バーはそれぞれ、卵黄蓄積中の卵巣濾胞のみをもつ個体、卵黄蓄積中の卵巣濾胞と輸卵管卵の両方をもつ個体、輸卵管卵のみをもつ個体それぞれの、各月の標本総数(N)に対する割合(%)。Okada et al. (1992, Nat. Hist. Res. 2: 43-52) の Fig. 3 を改変。

トピックス

ひとはく活用術

一 コロナ禍の状況に対応した博物館の新たな取組 一

2020年3月、新型コロナの影響で全国の学校園が臨時休業になりました。このような中、ひとはくとして何か出来ることはないかと考え、Webサイトを活用した3つの取組を実施しました。

1つ目は、自宅で学ぶ子どもたちに向けて開設した「ひとはくキッズのお道具箱」です。ここでは、ひとはくがセミナー等で蓄積した学習教材を掲載しています。

2つ目は、臨時休館等で来館出来ない方に向けて開設した「ひとはくデジタルアーカイブ」です。こちらは、ひとはくでしか見られない映像資料を研究員の選定コメントと共に公開しています。

3つ目は、Webをご覧の皆様に向けて研究員が自分の専門分野を分かりやすく解説した「ひと

はく研究員Webセミナー」です。内容としては、コロナ感染防止のため中止になったセミナーを再現したり、普段見ることが出来ない博物館のバックヤードを解説したりと、さまざまです。

今回は、ひとはくがこれまで館内で提供していたものを、いつでも、どこでも、何度でも閲覧可能なWebサイトを通じて届ける取組を行いました。今後もコロナ禍の状況に対応した、新しい博物館サービスを実現していきたいと思えます。

坂井 貴行 (生涯学習課)

